

野菜であるが大丈夫なのか。一度土の入れ替えをしているが、その後、新たな放射能がどの程度土壌に降ってきているのか。(土壌への降下は、主に空気中の放射性物質によるものを想定したものが示され、落ち葉などの混入への対策が最後に言及された。事前質問で雪が溶けた後の地表の放射性物質の分布の変化を問うたものがあったので、雪かきでの表層土壌の移動の可能性への言及もあった)

山口氏からは、放射性物質の降下量の測定結果や、サツマイモへの放射性物質の移行について、具体的な数値を基に説明がなされた。その上で、サツマイモに移行する放射性物質の量は、土を入れ替えることにより減るが、その減少量は測定限界以下の微量なものであり、土を入れ替える対策の優先度は高くない旨が示された。一方で、対策をするか否かに答えはないという点が強調されていた。

専門家間の議論で出てきた論点

- 提示されたグラフ(資料 6 ページ)は平成 25 年度のデータだが、平成 26 年度も同じ傾向を取るのか。同じ傾向だと予測されるなら、前年度より総量が減ることも踏まえて判断に資する情報になるが、そうでないならば判断には使えない。
⇒パターンは基本的には変化しておらず、量は減っている。2013 年 8 月には、一度、周辺のモニタリング・ポストに影響を与えるほどの突発的な変化があり、その後、モニタリング体制が強化されている。降下物は舞い上がりの成分が大きいと考えられ、線量率が高い地域で多い傾向にある。
- (資料 7 ページ)土壌濃度を算出する計算式が難しいのであれば、値を提示するだけでは混乱を生むのではないか。「累計の降下ベクレルの 100 分の 1 程度になる」という考え方ではいけないのか。
⇒問題ないと思う。
- これらの細かい数字に対して、保護者が受け取る感覚を同じ方向に向けるためにはどうすればよいのか。
⇒保護者にこのような細かい数字を示すことは必ずしも適切であるとは言えない。数字を示して考えてもらうのは負担を与えかねない。ここでは、県が各種のモニタリングを行いそれを公開していることと、調べたい人はそれを確認できることや空気中の放射性物質のインパクトを研修参加者に伝えようとしている。信頼関係を作るという観点からは、自治体などが頑張ることができることを行うとしていることを再確認することが考えられるのではないか。

Q2. 除染が進まず散歩に行けない。毎時 0.1 マイクロシーベルトなので外遊びの時間を制限していないが、体に害はないのか?

保護者の視点からは、除染は本来もっと進むべきなのに、という思いがある。また、安全の基準を明確に示してほしいという声も聞かれる。

これに対して、山口氏からは、現存被ばく状況では、「国の方針は、1～20 ミリシーベルトの範囲で下のほうを目指す」、というものであり、子どものことも配慮し、関係するステークホルダーの見解に基づいて、それぞれ設定すべきであるとしている旨²³が示された。それ以外の情報としては、他地域や状況別の被ばく線量が提示された。

結論としては、外遊びの時間制限による線量低減効果は小さい。積極的な対策が必要とは言えないため、他の対策との優先度も踏まえ、検討していくことが求められる。

専門家間の議論で出てきた論点

- 保護者が毎年入れ替わることを考えると、保育園としては方針を定めなくて、保護者と一緒に方針を考えるという姿勢のほうが良いのではないかと。昨年の方針は、今の当事者の意志を反映したものと言えないことがあるので、単なる情報として提供したほうが良いのではないかと。
- 同じ自治体にある保育園がどのように散歩をしているのか、という情報は保育士の判断に役立つと考えられる。
- 比較対象として適切なものは何か、ということをもっと考えるべきだ（資料 21、22 ページなど）。そもそも、リスクを比較することはあまり望ましくない。リスク比較をするならば、他の保育園の制限との比較のほうがよいのではないかと（他の保育園の、PM2.5 や紫外線による外あそびの制限と比較するなど）。リスクの性質が異なるものを比較するのは人々に受け入れがたいのではないかと。
- いずれにしてもリスクは何かと
- 資料 23 ページのようなデータは経年変化が見られると良い。砂場 2 は高い値 (8.8 Bq/kg) であるが、新潟から送られた砂である。この値をどう捉えるか、を考える必要がある。この値が高いと考えるならば、新潟の砂の放射線量が高いということを言うべきではないかと。一方、この値が高くないと判断するならば、ゼロに近づけることを目的とすることがおかしいということを示すべきである。ゼロベースで考えていると、除染はいつまでもやめられない。
- 東電福島原発事故前でもこの程度の放射性セシウム濃度となる表層土壌が存在していた。この試料は Cs-134/Cs-137 比から東電福島原発事故由来と考えられるが、どの成分が寄与しているのか、さらに調べる必要がある。
- 東京都新宿区の土壌データが示され対策を講じている福島県に比べると園庭の土壌濃度が逆転している状況にあるが、さらに対策を講じるのであれば、そのことを考える必要があるのではないかと。一方、これまで受けた線量を考えて、より追加線量を少なくしたいという気持ちを持つこともあるだろう。
- 保育園では、メインで使う砂場では新潟の砂を入れ替えたが、当時の状況では新潟の

² https://www.nsr.go.jp/committee/youshikisya/kikan_kentou/20140703.html

³ http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/info/news_111110.html

砂を入れられたことはとても有り難かった。当園ではよりレベルの低い砂が利用可能であったので入れ替えたという背景がある。

Q3. 県内産の食品はモニタリングを実施し安全と言っているが、本当に安全なのか？

山口氏より、検査体制およびその結果について説明があった。結論としては、食品の制限による線量低減効果は小さい。積極的な対策が必要とは言えないため、他の対策との優先度も踏まえ検討していくことが求められる。

専門家間の議論で出てきた論点

- 質問の意図を捉える必要があるだろう。検査結果が信頼できないという意味なのか、安全基準そのものが信頼できないという意味なのか。そもそも、安全基準を満たしたことが、安全（ここではリスクがないこと）であるということではない。そのため、「基準を満たしている」という事実のみを伝え、安全かどうかについては触れるべきではないのではないか。
- 「放射線防護上（資料 29 ページ）」という言葉は、レントゲン室のような管理区域内を連想させる。計画被ばく状況と現存被ばく状況での放射線防護基準の違いという厄介な問題とも関連するので、そういった言葉を使うべきかどうかは考慮する必要がある。
- 福島県内では、検査体制が充実している。流通している食品は検査されていること、住民の要望に応じた検査体制があることが確認された。

Q4. 保育所での取り組みのあり方

職員や保護者の中で意見が分かれ、対応が難しいという事柄が挙げられている。グループワークの議論のテーマとして紹介された。

専門家間の議論で出てきた論点

- 強い不安を持っている保護者がどの程度存在するかによって、対応は異なってくるだろう。例えば、震災直後は強い不安を持った保護者がほとんどであったと考えられる。その時期には、全体に対する説明会を行うことが有効だろう。一方、今は強い不安を持っている保護者の割合は小さくなっていると思われる。だとするならば、個別対応が必要な段階なのかもしれない。
- （資料 35 ページ）コミュニケーターの活用とあるが、地域の保護者に対しては、外部から呼んだコミュニケーターよりも、保育士のほうがうまくコミュニケーションが取れるはずである。専門的知見を分かりやすく話せる人を呼び、保育士がコーディネーターとなって、保護者と専門家の仲介をする、という形式が望ましいのではないかと。
- （資料 37 ページ）情報を伝えるのも、伝えないのも選択肢の1つであり、正解はない

のではない。例えば、ホットスポットがあったとして、それを伝えるか伝えないかは、保育園によって異なってよい。情報を伝えることによって生じる負担と、情報を伝えないことによって生じる負担の両方を考えて、選択することが重要である。また、一人で考えるのではなく、多くのスタッフと話し合うことが求められる。

- リスクを伝えるにあたり、放射線のリスクのみを伝える、という方法は正しいのか。保育園の中には様々な他のリスクも存在する。例えば、食品選びには放射線だけでなく、アレルギーなども関係してくる。伝え方が大切である。
- 資料 39 ページなどで、全員が参加しないという点が指摘されているが、全員が納得する、ということはほとんどない。数%の人は強固な意見を持ち、それを変化させない。こうした問題で求められるのは、「説明会」ではなく、「報告会」である。会のネーミングは重要である。
- 資料 40 ページのような心的変化に関する結果がどこかで公表されているのなら、その情報は提示したほうがよい⁴⁵⁶⁷⁸。

5. グループワーク

参加者を 6 グループに分け、各グループに講師が 1 人ずつ加わり、グループワークが行われた。グループワークの進行方法は以下の通り。

- ① 1 人 3 枚まで、これから話し合いたいテーマを付箋に記入する。(5 分)
- ② 1 人ずつ、これから話し合いたいテーマをみんなに紹介する。
- ③ みんなから出された話し合いたいテーマをグループ分けする。
- ④ グループ分けされた話し合いたいテーマについて、順番に話し合っていく。
(②～④合わせて 30 分)

各グループで活発に議論が行われた。グループワークで用いられた模造紙のまとめも、今後、作成する予定である。

6. クロージング

核融合科学研究所の佐瀬氏から閉会挨拶があった。

保育士と専門家が話し合うことにより、保育士の悩みや不安が少しでも軽減されることが重要であり、そのために専門家として努力を惜しまない旨が話された。

以上

⁴ <http://fukushima-mimamori.jp/mental-survey/>

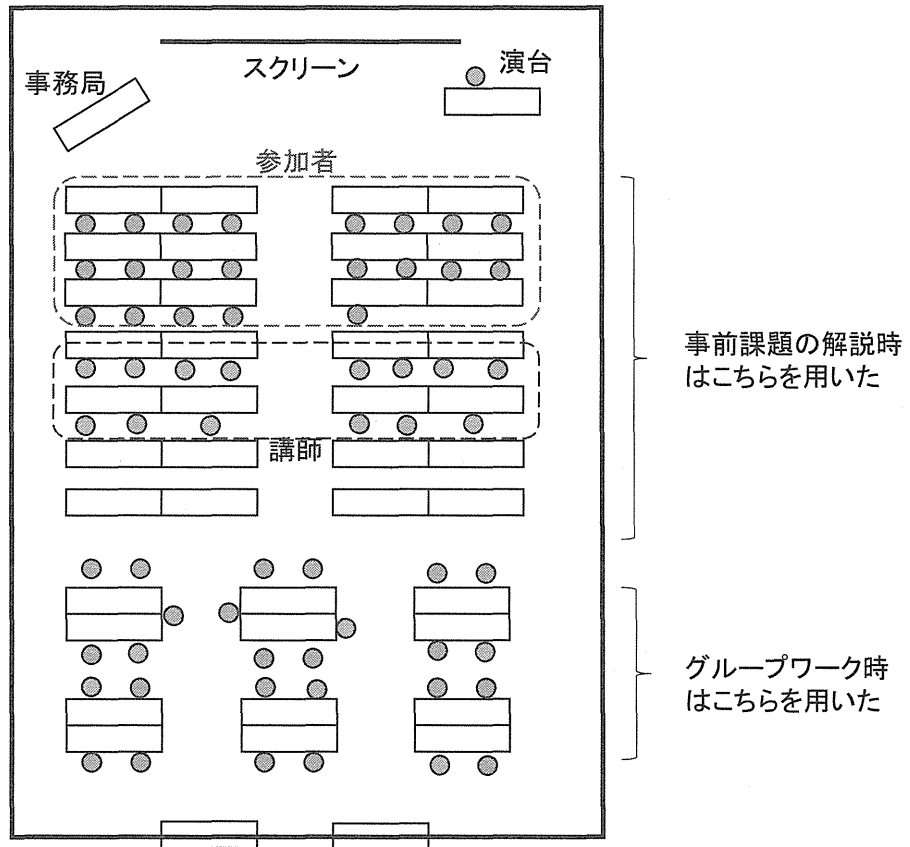
⁵ <http://cpsd.sss.fukushima-u.ac.jp/about/>

⁶ http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/pdf/2_4_1.pdf

⁷ http://www.irides-dpsy.med.tohoku.ac.jp/mentalhealth_archive/outline.html

⁸ <http://www.gakkai.ne.jp/jss/research/86/206.pdf>

(参考) 会場配置図



平成 26 年度ふくしま保育元気アップ緊急支援事業 相談支援者育成研修フォローアップ研修会に関する評価¹

当該研究において実施する保育士研修について、実施の状況、意見のまとめ等を参照すると共に、事後アンケート、参加者に対する事後インタビュー調査を実施し、その有効性を評価する。

1) 評価対象の研修会

名称：ふくしま保育元気アップ緊急支援事業 相談支援者育成研修フォローアップ研修会
(以降、単に「フォローアップ研修会」と記す)

日時：2015 年 1 月 22 日 (木) 10:30～15:30

場所：ビッグパレット福島

主催：福島県保健福祉部子育て支援課および厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業「原子力災害からの回復期における住民の健康を支える保健医療福祉関係職種への継続的な支援に関する研究」班

2) 事後アンケートの整理

フォローアップ研修会では、最後にアンケート記入の時間を取ってあった。ここでは、そのアンケート（事後アンケート）の結果を整理する。

アンケートでは、表 6 のような質問項目が含まれている。

表 6 事後アンケートに含まれる質問項目

Q1 勤務先の地域

Q2 性別

Q3 年代

Q4 保育所等の種別

Q5 研修内容について

①資料 (5 件法：「わかりにくかった」⇔「わかりやすかった」)

②講義内容 (5 件法：「わかりにくかった」⇔「わかりやすかった」)

③時間 (5 件法：「十分でなかった」⇔「十分であった」)

④質疑応答 (5 件法：「十分でなかった」⇔「十分であった」)

¹ 本資料の作成は特定非営利活動法人 パブリックアウトリーチによる。

⑤今後の活用（5件法：「役に立たない」⇔「役に立つ」）
 SQ5-1 わかりにくかったことについて（自由記述）
 SQ5-2 わかりにくかったことについての理由（自由記述）
 Q6 自由記述

ここでは、Q5以降について、結果を整理していく。

Q5の集計結果は、表7のようになる。

表7 Q5の集計結果

資料	わかりにくかった				わかりやすかった
N=19	1 5.3%	4 21.1%	3 15.8%	6 31.6%	5 26.3%
講義内容	わかりにくかった				わかりやすかった
N=19	1 5.3%	3 15.8%	9 47.4%	3 15.8%	3 15.8%
時間	十分でなかった				十分であった
N=19	1 5.3%	4 21.1%	11 57.9%	2 10.5%	1 5.3%
質疑応答	十分でなかった				十分であった
N=18 (無回答1)	0 0.0%	5 26.3%	10 52.6%	1 5.3%	1 5.3%
今後の活用	役に立たない				役に立つ
N=19	0 0.0%	1 5.3%	9 47.4%	4 21.1%	5 26.3%

用意された資料については、半数以上がわかりやすいと評価している。また、講義の内容に関しては、どちらかといえばわかりやすいという評価だと思われる。

一方、研修会の時間や質疑応答に関しては、中間意見が半数を占め、どちらかといえば十分ないという評価であった。

全体としては、半数程度が今後の活用に対して役に立つという評価をしている。

SQ5-1 および SQ5-2 では、Q5を受けて、自由記述の設問である。自由記述の内容は表8に整理した。

表8 SQ5-1 および SQ5-2 の回答

〔講義内容（進行を含む）に係わること〕

- 司会の先生と他の先生方の意思統一がなされていないためか、研修の内容があまり進まず、本当に必要なことを学ぶ時間が少なく残念に思いました。専門の先生方がたくさんいらしていたのに、お話が聞けず残念でした。→パネリストとして講師の先生方が前に出てきていただき、私たち保育士が質問するという形式のほうがよかったと思う。一方的に「聞く」時間が長く、もっと知りたいことがあった。
- 他の多くの園の取り組みをもっと長い時間聞きたかったです。→他の多くの園との情報交換の時間・グループワークの時間を長く取っていただけると、互いに情報交換（現場同士）できたと思います。放射線災害後の取り組みというテーマで他園と話し合いを持つことのできる貴重な場なので。
- 研修の内容よりも、内容に対する専門的な意見が多々あり、何をどのように聞けばよいか戸惑うことが多かった。
- 数値や統計での説明は、専門でないので、難しかったです。

〔今後の活用（要望を含む）に係わること〕

- 数値が提示されても、収穫物や散歩、外遊びなどへの影響がよく分かりませんでした。保護者への説明や対応（安心できるような）、保育所側の対応など、何が必要かもっと単純に教えていただければと思いました。→事前課題の説明では、数字を提示されても納得するのが難しかった。
- 土の入れ替え、外遊びの時間制限、自然物を取り入れた活動など、正解はないとのこと。○なのか、×なのか？ はっきりした答えがほしかった。そして、保護者の理解を得られるような説明の仕方を具体的に教えてほしかった。
- 内容を煮詰めてからの研修だとよいかと思いました。→対人間なので、科学的データのみでは解決できないこともあります。
- データは大切だと思うが、それだけでは知識として活用していくのは難しいと思います。具体例などをもっと多く示していただけたほうが、参考になったと思います。→対応はケースバイケースだと思います。たくさんの事例を聞くことで、参考にしていきたいと思えます。

これを見ると、まず、フォローアップ研修会の進行に絡んだ意見が見られることがわかる。「事前課題の解説」について、講師間での話し合いに終始してしまい、参加者が置き去りになってしまったことが指摘されている。また、「事前課題の解説」に多くの時間を取られ、その後の「グループワーク」の時間があまりとれなかったことについて、参加者同士の情報交換を期待していたという意見も挙げられた。

次に、内容に関する大きな要望は「実際の活動に役に立つこと」を知りたかった、ということである。保育所の実際の活動や、保護者に対して、どのように対応していけばよいのかについて、ケーススタディを具体的に知りたいという意見が聞かれる。科学的数値だけでは、このような実際の課題には対応できないと言う。

そのような意味でも、グループワークの時間が減ってしまったことは、評価を低くしてしまうことにつながるようだ。

表9 Q6の回答のうち、改善提案を含むもの

<p>[研修会のプログラムに係わる意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前課題の説明は、もっと山口先生や他の講師の方々の話を聞きたかったのですが、一講師の方の独演会のように感じて、少し残念でした。みんなの研修会だったので、参加のマナーに欠けているようにさえ思いました。 ● 研修参加者との質疑がもう少しあるとよかった。→まず私たちが理解し、アクションを起こしていく。汚された感、被害者意識があるから限りなくゼロにしたいと思ってしまう。そこからの脱却を再認識しました。 ● グループワークの時間が短く、他園の意見をもう少し詳しく聞きたかった。講師の方に入ってもらいとでも勉強になった。 ● フォローアップ研修として、今年度の取り組みを他園の方々ともっと話したかったです。実際の現場で、どのような問題や不安があるかなど共有できればよかったです。 ● グループワークの時間が有意義でした。もう少し長い時間があればよかったです。 ● 元気アップ事業に関わる職員が研修に参加していますので、できれば具体的な保護者からの相談事例を挙げて、「伝え方」の練習などをしていく内容があれば、とても役立つと思います。 ● もしこういう主旨の研修会でしたら、内容検討をお願いしたいと思います。
<p>[講師の回答内容に係わる意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 堀口先生がリスク比較にはならないので成田—NY（往復）やCTなどでの線量よりも子供に身近なPM2.5や紫外線の量のほうがよいと言っていたが、原発事故があった「福島」に住む子供たちの保護者には、他のリスクよりも子供たちと放射線との関係が一番気になり心配なところだと思うので、やはり私たちの生活の中にある放射線に関することが示されたほうが分かりやすいと思う。（他のリスクについても関心はあると思うが）

表9には、Q6の回答から、フォローアップ研修会への改善案を含むものを取り出した。

SQ5-1 や 5-2 にも関連するように、「事前課題の解説」については、その進行の方法（ファシリテーション、講師と参加者の会話のあり方）についての意見が見られる。

また、グループワークを期待していた参加者は多い。参加者同士の情報交換もさることながら、講師と直接話せることが良いポイントであるようだ。このグループワークはもっと時間を取って欲しいとの要望が挙げられた。

その他、具体的な事例紹介や、より実践的な内容を望む意見も見られる。

表 10 には、Q6 の回答から参加者の感想に当たるものを整理している。これを見ると、具体的な事例に関する内容や、グループワークによる参加者間や講師との情報交換を望む意見が見られることがわかる。

最後に、フォローアップ研修会を通じて、参加者自身の今後の活動をより発展させるように意思表示をしている意見も見られ、研修会が参加者にとって有用なものであったと言えることができるだろう。

表 10 Q6 の回答のうち、感想に当たるもの

<p>[研修会のプログラムに係わる感想]</p> <ul style="list-style-type: none">• あすなる保育園の取り組み、とても参考になりました。ありがとうございました。• 昼食時の講師の方との交流やグループ会議は実りあるよい時間でした。今の福島の状況に合った内容だったと思いました。• グループワークでは各保育所の情報を共有することができ、大変よかったです。• グループワークの時間に同じテーブルに入ってくくださった専門家の先生の話が具体的でとても分かりやすかったです。他の園さんも同じことで悩んだりしていることを知り、今後、他の園さんとも連絡を取り合えるようにしていきたいと思いました。ありがとうございました。
<p>[参加者自身の意思表示]</p> <ul style="list-style-type: none">• 放射能について、これから自分なりに向き合っていきながら知識として（基礎知識）学んでいくことが大切だと思いました。ありがとうございました。• フォローアップ研修会も回を重ねているので、放射能についての知識も学ぶことができます。保育所に持ち帰り、他の職員にも伝えていきます。• まだまだ多くの問題が残っていることを再認識できました。• 自分の立ち位置、現在の園の状況と再度見直していきます。

3) 事後インタビュー（参加者）による評価

評価にあたり、フォローアップ研修会参加者にインタビューを行った。概要は以下の通りである。

日 時：2015年3月6日 10:00～11:00

場 所：保育所内（福島県内）

対象者：保育所職員1名（女性1名）

実施者：木村・丸山（パブリック・アウトリーチ）

備 考：使用したインタビューガイドについては、図3を参照

保育士研修の有効性に関するインタビュー

日時：2015年3月6日 10時～11時

場所：[REDACTED]

実施者：木村、丸山（パブリック・アウトリーチ）

対象者：[REDACTED]

目的（仕様書より抜粋）：

「原子力災害からの回復期における住民の健康を支える保健医療福祉関係職種への継続的な支援に関する研究（研究代表者：山口一郎）」において実施する保育士研修について、実施の状況、意見のまとめ等を参照すると共に、事後アンケート、参加者に対する事後インタビュー調査を実施し、その有効性を評価する。

インタビュー内容：

1. 研修の各ステップを振り返って、良かった点、悪かった点、要望
2. 研修全体を通して、参加した感想と、役に立った点
3. 研修の活用について

○対象の研修

名称：ふくしま保育元気アップ緊急支援事業相談支援者育成研修フォローアップ研修会

日時：平成27年1月22日（木） 10：30～15：30

場所：ビッグパレット福島

次第：

1. 開会・あいさつ・オリエンテーション
2. 保育施設での取り組み事例の紹介：福島市あすなろ保育園の取り組み
3. スタッフ自己紹介
4. 事前課題の解説：皆さんからいただいた疑問を一緒に考えます
5. グループ・ワーク：お互いに情報交換しましょう
6. クロージング：保育スタッフの皆様へのメッセージ
7. アンケートへの記入

図3 インタビューガイド

以下にインタビューの結果を示す。

研修会の各ステップを振り返って、良かった点、悪かった点、要望

[開会・あいさつ・オリエンテーション]

- 子育て支援課の小川氏の話聞き、震災直後にはこういう問題があって、震災1～2年

後にはこういう問題があつて、少し落ち着いてきた今はこういう問題がある、ということが短い時間で把握できた。県の動向が把握できたし、自分たちの取り組みとも足並みが揃っていることを改めて確認することができた。保護者の方に説明する際に役に立つと感じた。

〔保育施設での取り組み事例の紹介〕

- 今回の研修だけでなく、前回の研修でもあすなろ保育園の取り組みを聞いたが、様々な努力をされていて、素晴らしいと思った。
 - ただし、当園で同じようなことができるかという、難しい面もある。他園の方も難しいとおっしゃっていた。(スタッフの人数などの課題がある)
- 特に印象に残ったのは、「子供のリスクを最小限に抑えること、保護者が安心できるようにすること(安全であるとは言えない)、放射線量に対する知識を持ち、それを保護者に伝え、正しく怖がることのできるようになること、保護者と協議し、納得した上でできることをひとつずつ増やしていくこと」という言葉である。
 - ただし、「安全であるとは言えない」「正しく怖がること」は、当園では言えないと感じた。それ以外についてはおっしゃる通りだと思う。
 - 保護者の方は不安を持ちながらも福島で子育てを続けている。その気持ちに寄り添い、一緒に考え行動していくことが大切だと感じている。当園の取り組みでは、放射線の何が怖いかを保護者が言葉にできたら、専門家の協力を得て測定を行い、また様々なデータを見せていただき、不安をもつ保護者に見てもらった。数字の見方等も専門家に教えていただき、心理的な面からもサポートしていただくという繰り返しを何度も行ってきた。
 - 当園では、保護者の方に定期的にアンケートを書いていただいている(アンケートに書くことよって、会話では出てこない話が出てくることがある)。保護者の方は、「全て安全です」と言われると反発したくなるが、「安全でない」と言われると不安になってしまうようだ。
 - 専門家の方をお呼びして、放射線の学習会を何回か開いているが、その際のアンケートに、「自分たちがここで子育てをしていることに自信を持てた」という意見もあった。保護者の方がそういった気持ちになるまでには紆余曲折があったとは思いますが、そのような気持ちになっていただけて良かったと思う。

〔スタッフ自己紹介〕

- たくさんの先生方がいらして、ありがたいと思った。

- 「なすびの疑問」は、その後スーパーマーケットのカウンターで見かけた。

〔事前課題の解説〕

- 様々な考え方があるということが分かり、勉強になった。
- 各園の状況を理解されていて、その上で判断材料になるデータを示してくださるので、とても助かる。
- 事前課題の解説で提示されたデータに対して、度々コメントをする講師の方がいらした。この研修は、「中通り地域」の「保育士」が対象のはずだが、その目的に沿ったコメントだったかどうかには疑問が残る。その講師の方は、福島にも何度か来られているようだが、地域によって抱えている課題は異なっているので、今後はこのような点も踏まえ検討していただきたい（注釈：講師からは他の地域ではどうなっているかや他の地域からはどう見えるかという観点も持つべきではないかとの指摘があった）。
- 「事前課題の解説」の時間を長く取っていたが、他園の方との情報交換の時間をもう少し増やしていただけるとありがたい。

〔昼食〕

- 他園の方や専門家の方とお話ができ。他園の立場や取り組み、そして保護者への対応について情報がほしかったので、役に立った。

〔グループワーク〕

- 認可外の保育施設の方が集まったグループだったが、認可外の施設の間の共通の悩みについて話し合えた。
- 講師との距離が近くなり、直接聞きたいことを聞くことができた。
- 附箋に自分の意見を書いて、同じような意見を集めて、話し合っていく、という方法は良かった。
- グループに入ってくださった講師の方の進行が非常に良かった。最初に講師の方が自分の取り組んでいることを丁寧に説明してくださったので、講師の方の立場がよく分かった。また、質問に対し、ゆっくりと丁寧に説明してくれた。
- 他園の方も同じ疑問・悩みを持っていることが分かった。この研修は、福島県内のやや広い範囲内で、似たような悩みを抱えている方が集まっていて、お互いに何か得られるものがあると思っているからこそ、毎回参加している方がいるのだと思う。似たような悩みを抱えている方たちと話し合うことは、今後の対応を考える上で非常に役に立つ。

- 自分の園の中だけで考えていても、どうしようもならないこともある。近くの園で相談すればよいと言われるが、近くといえどもそれぞれ状況が異なっているので、隣の園と同じ取り組みをすればうまくいくとは限らない。
- もう数値に変化がないということで、ガラスバッジの使用を希望しない方が増えているのだが、それに対して、グループに入られた講師の方が、「あれはお守りなのです。10年後、20年後のために、継続して測ることはいいことなのですよ」とおっしゃっていて、目から鱗が落ちる思いだった。その後、いろいろな人にその言葉を伝えている。

[クロージング]

- パワーポイントを用意されていたようだが、時間の関係で口頭のみだったのが少し残念だった。しかし、研修の時間を守ることも大切だと思う。(それぞれの園の事情もあるので)

研修全体を通して、参加した感想と、役に立った点

- このような研修に参加する機会を与えていただき、感謝している。
 - 多くの講師の方がいらして、それぞれの立場の考え方を知ることができた。
 - 放射線の問題は福島県特有のもので、かつ、現在進行形の問題である。園としてどのように対応していくかを考える上で、大切な研修会だと思っている。今後も継続していただきたい。
 - 公立の保育施設*の方と認可外の保育施設*の方が一堂に会する研修は珍しいので、他園の方の取り組みをもっと聞きたいと思って参加した。情報交換の時間がもう少しほしかった。実際に、グループワークの中で他園の取り組みを聞けて、ためになった。他園の方の話聞くために研修に参加されている方も多いと思う。
- ※ 公立の保育施設は、県や市の方針に従った取り組みをしている（例えば、県が安全と認めたので、福島県産の食品を用いる、など）。一方、認可外の保育施設は、県や市の方針を基に組み立てているが、保護者の方の要望に沿った独自の対応をすることも多い。

研修の活用について

- あすなる保育園のように、外部の方と協力関係を持てるとありがたい、という話を参加者同士でしていた。当園は、専門家といい協力関係が築けているので、助かっている。何か疑問点があると専門家に相談して、回答をいただいたり、他の先生を紹介してもらったりしている。

4) まとめ

フォローアップ研修会について、実施の状況の観察と分析、事後アンケートの分析、参加者に対する事後インタビュー調査を実施し、その有効性を評価した。要点をまとめると、研修会の「事前課題の解説」について、講師間での話し合いに終始してしまい、参加者が置き去りになってしまったことが指摘されている。また、「事前課題の解説」に多くの時間を取られ、その後の「グループワーク」の時間があまりとれなかったことについて、参加者同士の情報交換を期待していたという意見も挙げられた。グループワークを期待していた参加者は多い。参加者同士の情報交換もさることながら、講師と直接話せることが良いポイントであるようだ。このグループワークはもっと時間を取って欲しいとの要望が挙げられた。

参加者の内容に関する大きな要望は「実際の活動に役に立つこと」を知りたかった、ということである。保育所の実際の活動や、保護者に対して、どのように対応していけばよいのかについて、ケーススタディを具体的に知りたいという意見が聞かれる。そのような意味でも、グループワークの時間が減ってしまったことは、評価を低くしてしまうことにつながってしまった。

フォローアップ研修会を通じて、参加者自身の今後の活動をより発展させるように意思表示をしている意見も見られ、研修会が参加者にとって有用なものであったとすることができるだろう。

成果物の有効性に関する評価¹

(1) 作成資料に関する評価

当該研究において作成している資料に関して、フォーカス・グループ・インタビューを実施することにより評価する。

1) 評価対象

名称：放射線便利帳

版：2014年12月発行（第3版）

2) インタビューの実施

「放射線便利帳」に関する評価については、2回のフォーカス・グループ・インタビューによって行った。インタビューの概要は以下の通りである。

[インタビュー1]

日時：2015年2月28日 13:00～14:00

場所：保育所内（福島県内）

対象者：保育所職員2名（男性1名、女性1名）

実施者：木村・竹中（パブリック・アウトリーチ）

備考：使用したインタビューガイドについては、図1を参照

[インタビュー2]

日時：2015年2月23日 13:10～13:30

場所：柏市施設

対象者：柏市住民5名（女性5名）

実施者：木村・竹中・丸山（パブリック・アウトリーチ）

備考：「フォトボイス手法を用いたリスクコミュニケーション検証に関するワークショップ」内で実施²

¹本資料の作成は特定非営利活動法人 パブリックアウトリーチによる。

²「フォトボイス手法を用いたリスクコミュニケーション検証に関するワークショップ」に関しては、PhotoVoice手法の有効性に関する評価を参照のこと。

「放射線便利帳」の使いやすさに関するインタビュー

日時：2015年2月28日 13:00～14:00

場所：[REDACTED]

インタビュイー：3～4名

インタビュアー：木村・竹中（パブリック・アウトリーチ）

インタビューの形式：フォーカス・グループ・インタビュー

（複数名を同時にインタビューします）

〔目的〕

国立保健医療科学院の作っている「放射線便利帳」をよりよいものにしていくことを目的として、実際に利用している、または、利用する可能性のある方々に、わかりやすさ、使いやすさ、などの観点からのご意見をお聞きします。

〔事前のお願い〕

もし「放射線便利帳」を初めて目にする方がいらっしゃいましたら、事前に目を通してくださるよう、お願いいたします。

〔インタビューの内容〕

1. 「放射線便利帳」を、今までどのような場面で利用しましたか、もしくは、利用してみたいと思いましたか。
2. 実際に「放射線便利帳」を利用してみたときの感想や意見を教えてください。
 - 2-1. 「放射線便利帳」のわかりやすかったところ、逆に、わかりにくいところを教えてください。また、その理由を教えてください。
 - 2-2. 「放射線便利帳」の使いやすかったこと、逆に、使いにくかったところを教えてください。また、その理由を教えてください。
 - 2-3. どのような点が改善されれば、より利用しやすくなりますか。
3. 「放射線便利帳」について、ご意見があればお願いします。なんでも構いません。

〔その他〕

- このインタビューは、国立保健医療科学院の事業の一環で実施しています。
- 記録を整理するために、録音いたします。個人が特定されるようなことはいたしません。

インタビューへのご協力、ありがとうございました。

図1 インタビューガイド

3) インタビュー結果の整理と評価

放射線便利帳の利用機会について

「放射線便利帳」について、少なくともインタビューを実施した範囲において、認知されていなかった。福島県内においては、現在では放射線に関する資料の利用機会が減っている。震災直後から夏頃までにこのような資料があればよかった、との声が聞かれる。

また、資料の利用範囲を広げる（保護者への配布を含める）ことも視野に入れるのはどうかという提案がなされた。（表1）

内容について

全体としては、イラストが豊富であり、見やすく、読んでみようという気持ちになるという評価を得た。また、目次が裏面に配置されており、必要になったときの辞書としても使える工夫がなされているという意見もあった。一方で、専門的な用語について、分かりやすく解説しようと工夫されていることに一定の評価をしつつも、さらなる工夫が必要との意見も聞かれた。（表2）

個別のコンテンツに関して、食品や外遊びに関する情報が載っていることについては、良い評価がなされた³。

また、放射線便利帳に追加して掲載して欲しい内容としては、建物の中の放射線量、将来どうなるのか（例えば、10年後の健康影響はどうなるのか）がわかるようなコンテンツの要望があった。これらのコンテンツは、震災直後に必要というコンテンツではなく、現在の福島において必要な情報ということであった。掲載するコンテンツについても、状況変化に合わせたものが必要になることがわかる。（表3）

参考までであるが、インタビューで出てきた、現時点での保育所の気をつけている点、悩み等を整理しておく。（表4）震災後に出来なくなってしまった外遊びについて、今後、活動の復活や保護者との対応に、どのように取り組んでいけばよいかが主な論点であった。

³ 放射線便利帳の使用想定範囲外であるが、柏市住民からは福島と他県との評価を見ることができたことについて高評価であった。（柏市の説明資料では、福島との対比のような情報が不足していた。）ただし、放射能が拡散した県である千葉県の情報がないことに対して、不満が残っていた。

表1 放射線便利帳の利用機会に関する意見

- 「放射線便利帳」は、先週いただいたばかりで、利用したことはない。今までも保育所には配布されていなかった。
- 現在は、保護者の方も放射線についてあまり言ってこなくなっている。現時点では「放射線便利帳」を利用する機会はそれほど多くない。
 - 保護者の方があまり言わなくなった理由：日常生活の中で気にしてられない。事故から年月も経っている。気にしている人は気にしていると思うが、事故当初のテレビの情報や、当園で行った研修などによって、放射線影響の内容を把握されている方が多くなっている。
- 当園が悩みを抱えていた時期（震災直後～夏頃）に「放射線便利帳」をいただけたら、参考になったかもしれない。手探りで対応し、様々な講演なども聞きに行ったが、疑問が解決しないままのときもあった。そういった時期から活用できれば良かった。
 - 当時困っていた事柄：プールをどうするか。外遊びの時間をどうするか。砂遊びをどうするか。食べ物（きのこ、牛乳など）は大丈夫なのか。
- 「保健福祉職員向け」とあるが、保育所に置くだけでなく、保護者の方に直接渡すことができれば、より安心していただけると思う。保育所としても保護者の方に説明はするが、気になる方はご自身で目を通すのではないかな。
 - ただし、「保健福祉職員向け」と書かれていると、難しいかもしれないと思って、読まない方もいるかもしれない。「誰でも簡単」などと書かれていれば良い。

表2 放射線便利帳に関する全般的な意見

〔良い点〕

- イラストが載っているので、第一印象は良い。文字ばかりが並んでいるよりは分かりやすく感じる。分かりやすくするために工夫されている。
- 字がたくさん書かれているわけではないので、見やすく、手に取りやすく（難しそうと思って敬遠しにくく）、分かりやすいと思う。
- 今までに見てきたい資料の中では、一番見てみたいと思えた。（イラスト付きの資料はあまりなかった）
- カラーでイラストも多く、女性や子供でも見やすいと思った。
- 目次を見て、どこに何が書いてあるかがすぐに分かるのは良い（保護者の方から質問が来たときには、すぐに答えられることが望ましいので）。放射線に関して、辞書のように活用することはできるだろう。